

長崎県新上五島町(上五島地区・有川地区)における藻場再生・保全活動

新上五島町・上五島町漁協・有川町漁協・長崎大学・(株)E-SYSTEM・(株)東陽テクニカ



☆プロジェクトの概要

長崎県新上五島町は、「つばき香り豊かな海と歴史文化を育む自立するしま」を将来像として、基幹産業である水産業の振興はもとより、豊かな海を守りながら水産業が共存し続けるまちを目指す“里海”づくりにも取り組んでいます。

新上五島町(上五島地区・有川地区)では、ウニ類の食害等による磯焼け現象が発生したため、上五島町漁協の潜水部会のメンバーは2015年から、有川地区漁業集落有川支部のメンバーは2010年から毎年6～7月にウニ類(ガンガゼ、ラッパウニ等)の駆除を継続して行っています。また、有川地区の横浦では、長崎大学海洋未来イノベーション機構・水圏植物生態学研究室がアマモの繁茂を促進するために2021年5月から、海底にある海洋ゴミの回収を行っています。

各取り組みの結果、植生変化が徐々にみられ、上五島地区では2020年以降は小型褐藻類(アミジグサ)が、有川地区では南方系ホンダワラおよびアマモが繁茂するようになりました。

☆プロジェクトの特徴・PRポイント

新上五島町では、持続的な藻場再生を目指す潜水部会を中心とする漁業者と上五島町漁協及び有川町漁協、カーボンニュートラルへの貢献を目的とする民間企業((株)E-SYSTEM、(株)東陽テクニカ)、そして磯焼け問題の研究を行ってきた長崎大学と連携し「新上五島地区藻場再生・保全活動組織」を発足しました。これにより藻場再生及び保全活動の活性化につなげていきます。

今回取得したクレジットは、新上五島町(上五島地区・有川地区)の今後の藻場再生・保全活動資金として、活動を継続します。

更には、今回の新上五島町(上五島地区・有川地区)での取り組みを起点として、カーボンニュートラルへの関心度を高め、地域住民等と長崎大学を合わせて産学官民の連携した藻場保全活動につなげ、活動区域を広げつつより多くのCO2吸収源の拡大に向けた展開を図っていきます。



①磯焼けの様子 2015年7月



②ウニ駆除・海洋ゴミ回収 毎年継続



③海藻出現 2020年6月8日



④藻場植生 2023年7月6日

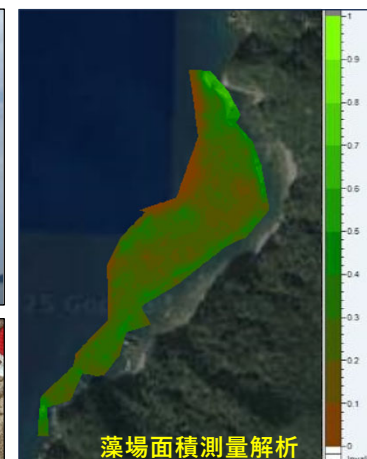


2025年6月10～12日調査実施

植生探査ソナーによる調査



ドローンによる撮影



藻場面積測量解析



坪刈り 上五島地区 アミジグサ



坪刈り 有川地区 イソモク



調査時の海藻の様子
上五島地区 2025年7月4日



調査時の海藻の様子
有川地区 2025年6月17日



調査時の海藻の様子
有川地区横浦 2025年5月18日